

The title of our information paper "i-co" is pronounced the same as the Japanese word "aiko," which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of "Sharing and Caring."

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。

i-feature

島根県西部「^{かぐら}神楽の里」とも呼ばれる浜田の地に、神楽衣裳製作という匠の技を受け継ぐ多機能事業所がある。高い技術と品質で地域の伝統文化を支える事業所の素顔とは？

社会福祉法人 いわみ福祉会

ワークくわの木 金城第2事業所

“地域の必要性に応えたい”“地域とのつながりを大切に”という理念のもと、1979年より「蛇胴(じゃどう)」*をはじめとした神楽衣裳・道具の製作に取り組み、現在では地域に欠かせない存在となっている。

種別: 就労継続支援A型事業(10名)・就労継続支援B型事業(30名)

対象者: 知的障がい者・身体障がい者・精神障がい者

活動: 蛇胴製作、神楽衣裳製作、神楽面製作、神楽道具製作、染幕製作、和紙製作、農業、自然有精卵

所在地: 島根県浜田市金城町下来原1541-8

*蛇胴…石見神楽の代表的演目「大蛇(おろち)」で使用される大蛇の衣裳。



つくってみんなさいや



いわみ 石見神楽と革新性

「神楽」とは、神をお迎えし、感謝の心を表す歌舞であり、かつては収穫期などの神事の際に神職が奉納するものだった。明治期の「神職演舞禁止令」により、神楽は神社の氏子を中心とした地域の人々に受け継がれ、能や狂言、歌舞伎などの影響を受ながら演劇性を増し、日本神話を主な題材とした伝統芸能として今に伝えられてきた。

浜田に伝わる「石見神楽」の特徴は、八調子と呼ばれる速く軽快なテンポのお囃子(はやし)と、絢爛豪華な衣裳。年代を問わず神楽は盛んで、市内だけでも50もの神楽団があるという。ただ伝統を守るだけでなく、常に新たな考えに耳を傾け、外から学び、斬新な演出を加えていく。そんな革新性こそが石見神楽の伝統ともいえる。

石見神楽にとって、衣裳は重要な要素。一針一針縫い上げられた刺繍の端正な彩り、縫い付けられたガラスや鏡の輝きが、舞人の一つひとつの所作に煌びやかさや厳かさをそえるのだ。

そんな衣裳の製作を担う工房の一つが、「ワークくわの木 金城第2事業所」である。ここでは障がい者が、職員や子育てなどの理由で就労に困難を抱えたパートの方とともに、総勢約80名で神楽衣裳の製作に取り組んでいる。年商は、なんと一億円以上。職人の技を受け継ぎ、確かな品質で地域に貢献する事業所では、どのような人々が衣裳製作に取り組んでいるのだろうか？

(次頁へつづく)



いまは、この仕事一本で。

澄川 みゆきさん

以前は桑の木芸能クラブ*で神楽に出演したりもしましたが、今はこの仕事一本でいきたいのでやめています。他の工房で作られた衣裳を見ると、「あの刺繍してみたいな」って思ったりしますね。



金糸を使った刺繍を担当。針を通す位置を素早く確認しながら、静かに糸を送る。その手さばきは、まさに職人のもの。

*桑の木芸能クラブ…いわみ福祉会の障害者支援施設「桑の木園」の利用者により結成された神楽団。



蛇胴の貼りこみを担当。竹で作った骨組みに特製の糊(のり)をひき、蛇の肌となる和紙を貼る。細心の注意が必要だ。

丁寧なしごとを、あわてずに。

佐々岡 夏輝さん

気をつけていることは、丁寧な仕事をする事です。あわてずに、職員の指示にしたがって自分のできるところまでやってみようと考えています。みんなが頑張っているのを見るのは自分にとっても励みになります。

人と顔を合わせること。

佐々木 吉晴さん

これ(指の欠損)になってからは、しばらく仕事をしていなかったですが、やっぱり人と顔を合わせて話をしたりというのがいいですね。家にも飲んでばかりですから。



彩色された蛇胴に金と銀の模様を貼りつける作業を担当。この模様の有無は見た目の印象を左右する。



取材当日には、初めての作業に挑戦。鏝(よろい)のふちに糊(のり)でとめたテープをミシンで縫いつける作業。「難しかったけど、なんとかできた」と笑顔がこぼれた。

目標は、車の免許を取ること。

辻野 みつこさん

できるが増えるのはうれしいです。いま、車の免許を取ろうとっていて貯金をしています。家族で食卓を囲む時間は大切な時間。今日はどんな仕事をしたか、いろんな話をします。

ほしいものはとくにないけど、健康であればいい。あとは、家族が幸せであること。

山下 まゆさん

時間をかけてこつこつとやっていくうちに、少しずつできるようになりました。自信がつくと、他のことにも欲がでてきます。家で暇なときは、あれをしようか、これをしようかと、少しずつ心のゆとりができますね。



神楽衣裳の核ともいえる「生き物」*の製作を担当。小さな頃から細かな作業が好きだったという山下さん。縫製工場への勤務を経て一時は老舗の神楽衣裳店に出入りしていたことも。

*生き物…龍や虎、鶴亀、鳳凰などをモチーフとした立体的な装飾。綿などを詰め、立体的に盛りあげた下地に金糸銀糸で刺繍を施して製作する。

Challenge!

革新×挑戦



本当にいろんな作業があるのですね。どの作業を誰に任せるのか、適性や能力の見極め、その判断はどのようにされているのでしょうか？

いろんな方がいますので、それぞれがいま何を求めているのかにあわせて、仕事を任せるようにしています。例えば、いい職人になって一円でも多く稼ぎたいというような利用者さんには、どんどん難しい作業に挑戦してもらいますし、ここに来て一日みんなと作業をすれば気持ちが落ち着くのだというような方には、そんなにノルマをかけず、「あせらずいいものをつくらう」と声をかけるようにしています。一人ひとりを杓子定規にとらえるのではなく、その日の顔色とか、声音とか、声をかけたときの反応とか、そういったものを感じながら、指示をだしたりしています。一人ひとり声を聞きながら、一度任せせてみるということですね。

何か難しい課題が一つあったとすると、私の場合、まずは利用者さんに声をかけてみるようにしています。「これ、やってみるか?」と。その時に「私、やってみます!」と利用者の目がキラッと光ったら、「よし、やるぞ!」と応援するようにしています。

職員の方々が一人ひとりを見てくれているというのがわかるからか、細かな指示を出さなくても、利用者の皆さんは安心してそれぞれの作業に集中しているように感じられます。作業の進捗も各人に任せているということですが、商品である以上、当然納期というものがあります。全体の進行管理についてはどのようにされているのでしょうか？

一番大切なのは「いいものをつくる」ことから、決して焦らせるようなことはしません。少し急いだ方がいいと感じる時は、ケース・バイ・ケースで対応しています。例えば、この人はノルマを意識させた方がいいと感じた時には、「これはいついつまでに完成させたほうがいいぞ」と発破をかけますし、焦らせるとしんどくなって仕事ができないのではと感じた時には、



「ゆっくりがんばろう、美しいものを作ろう」と声をかけています。

「いいものをつくる」という思いが皆さんに浸透しているのか、利用者からも速くできるようになりたいと思う気持ちはあっても、「あせらずに、いまある仕事をきっちりする」ことを心がけているという声を聞くことができました。

この仕事は、熟練するまでには時間がかかるということ、みんなわかった上で仕事をしているのだと思います。急いでやっせと振り返る暇もないのですが、一つずつ確実に作業をこなすことで、絶えず自分を振り返ってみて、ここまでできるようになった、あそこまでできるようになったなんて言いながら、それぞれ自信を深めていたり、力をつけていたりするんだろうなと思っています。

ただ時間をかけるのではなく、その中で一つひとつ積み重ねていくことが大切ですね。

神楽事業にしてみても30年に及ぶ歴史があります。避れば10年以上も全く売れなかった時代もありつつ、今日ここまでできるようになりました。時間をかけて積み重ねた結果があつてのいまなんだと思います。

一人ひとりの歩みはゆっくりでも、一つずつ確実な仕事を積み重ねることが、「いいもの」をつくる一番の近道。一針一針通した糸がしだいに鮮やかな模様を描き出すように、繰り返して繰り返して重ねられた時間の中で築かれた職員と利用者の信頼、事業所と地域の信頼関係。相手を信じて任せること、待つことのできる懐の深さを感じた取材となりました。

Interview

営業主任・職業支援員
佐々木 満さん

地域を想い、作り続けることで 得た信頼

神楽衣裳の製作を始めたそもそものきっかけは何だったのでしょうか？

法人の理念にもあるように、「地域の必要性に答えたい」という思いから、1979年に蛇胴の製作を始めました。職員一人と利用者二人、見よう見まねで作りましたのですが、素人の作るものとして全く相手にされなかったのです。ようやく売れるようになった89年の年商は40万円で、お給料を出すにも一人月額5千円。そんな状態が長く続きました。

初めから職人に技術を学んだのではなかったのですね。

蛇胴については、当時の職員と利用者さんの長年の試行錯誤によるものです。その努力が地域の方々に認められ、1992年の転機につながったのだと思います。

どのようなことがあったのでしょうか？

後継者のいない衣裳職人さんが廃業されるということで、「衣裳づくりをやってみないか」と神楽面職人の方から勧められたのです。職人の技術は門外不出のもの。他に教えることなどありえないのですが、衣裳職人さんの「地域や障がい者のためになるのなら」という思いから、教えていただくこととなりました。素人の試行錯誤ではなくなったことで、作るものにも自信がついたと当時の職員が振り返っています。

衣裳製作については、職人から直接学んだ技術がいまに受け継がれているのですね。

そうですね。技術を伝えてくれた職人さんが懐の深い方だったからこそ、いまの衣裳製作があるのだと思います。

職人から学んだ技術と職員・利用者の試行錯誤。高品質な商品の提供。顧客に喜んでいただくために、ほかにどのような工夫をされているのですか？

衣裳の製作にあたっては、神楽団の方の希望を細かく聞き取り、できる限りその要望に近い衣裳を作る努力をしています。ですから、二つとして同じデザインの衣裳はありません。もちろん古典的な型紙はあるのですが、伝統を守るだけではなく、新しいものを採り入れながら守っていくのが石見神楽の特徴です。私たち自身が新しい発想をもっていないと、神楽団の方といい仕事ができないのです。

要望をもとに作られた衣裳デザイン。それをいかに型紙どおりに仕上げるかということが利用者さんとパートさんの仕事となるのですね。

神楽団の方にとっても安い買い物ではありませんから、仕上がりに高い完成度が求められます。技術も根気も必要な作業なのです。

一人ひとりの声を聞きながら

作業場について。一日のスケジュールはどのようなものなのでしょうか？

作業日は週5日(または6日)。朝は8時30分に集まって清掃をし、9時から17時まで作業を行います。昼休憩のほかに10時と15時に休憩をとりますが、いつはじめていつ休むか、どこまで作業を進めるかは、それぞれの体調や考えもありますので、各人に任せています。

作業場では、皆さん自分の持ち場で黙々と作業に集中されています。いろんな作業があるように見えますが、どれくらいの工程があるのでしょうか？

いま作っているのは、「水干(すいかん)」とって神様が上着とする着物です。正確に数えたことはないのですが、ざっと見積もって20くらいの工程があります。誰でもできるものではないという工程もありますが、これだけたくさん工程があれば、利用者さんの障がいに応じたさまざまな仕事もあるのです。

作業の分担は、どのようにして決めているのでしょうか？

依頼によって、作るものもデザインも変わりますので、毎回毎回同じ仕事というのはありません。その時々利用者さんがベストな力を出せる場所を見極めて、それぞれの配置を考えています。難しい依頼、高度な商品になればなるほど、いろんな障がいの方が衣裳づくりに携われるチャンスがあると考えて取り組んでいます。

人によってはいつも同じ作業を、また人によっては複数の作業を担当することもあるということでしょうか。

そうですね。障がいや力量は、人によってまちまちですから。作業を続けるうちにも増えていきますし。一日一日、利用者さんは力



Information

ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集2013
国内募集の受付がはじまります!!

受付期間 **9/1日-27日**

国内外を問わず、障がい者によるアート作品を公募する「作品募集 2013」。国外募集に続き、国内募集の受付が9月1日(日)よりはじまります。

入選作品は、大阪・東京・横浜で開かれる巡回展で展示されるほか、入選作品集(図録)に掲載。昨年度の入選作品は、韓国、スリランカからの招きに応じ出品しました。多くの方に作品にふれていただけるチャンスです! 皆さまのご応募をお待ちしております。



© BARON UEDA

※応募方法については、「募集要項」をご確認ください。「募集要項」は、ビッグ・アイホームページからもダウンロードいただけます。郵送をご希望の方は、下記までご連絡ください。

問合せ 「アートプロジェクト」係 TEL072-290-0962 FAX072-290-0972
E-mail museum@big-i.jp ホームページ <http://big-i.jp/> **ビッグ・アイ** 検索

Campaign

Web限定宿泊プラン!

ビッグ・アイの「宿泊予約サイト」の新規オープンを記念して、お得にご宿泊いただけるプランをご用意いたしました! ビッグ・アイ宿泊予約サイトよりご予約いただきました方に限り、宿泊料金一割引きにてご宿泊いただけます。この機会にぜひ、ご利用ください。

■宿泊料金(1泊 朝食付)

一般

6,000円/人 → **5,400円/人**

※メイト会員割引等、原則的に二重割引の適用はできません。

■実施期間

2013年 **9/1日-12/31日**

問合せ ビッグ・アイ フロント
TEL 072-290-0900 FAX 072-290-0920
Eメール front@big-i.jp

宿泊予約サイトが新規オープン!



多目的ホール・研修室の予約状況もご確認いただけます。

ビッグ・アイ宿泊予約サイト

<http://www.big-i.jp/hotel/>

※楽天、じゃらん等、一般のwebサイトからのご予約は、当サービスの適用外となります。

チェックインの際には、**ぜひビッグ・アイメイト**にもご入会ください!



Present!

プレゼントクイズ

今号の特集記事からの出題

Q 神様をお迎えして感謝の心を表す歌舞を、何と呼ぶ?

ヒント:漢字2文字で



5名様



いわみ福祉会オリジナル「名刺・カードケース」をプレゼント!

■応募方法

クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。

①氏名(ふりがな)②郵便番号③住所④電話番号

⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など

正解者の中から抽選で5名様に景品を発送させていただきます。

※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

■応募締切

2013年9月30日(月)消印有効

■応募先

〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

編集・発行 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

発行日 2013年8月31日



EVENT CALENDAR

9 September



14日[土]・15日[日]・16日[月・祝]
各日13:00~16:30

大阪府障がい者芸術・文化フェスタ2013

▶出演:障がい者アーティスト33組
▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要▶定員:1,200名
▶問合せ フェスタ係 072-290-0962



11 November

BiG-i ART FESTIVAL 2013

ステージイベント、ダンスワークショップ、コンサート、展覧会と盛りだくさんのアートフェスティバルを開催します!

3日[日] 11:00~16:00

HANDSIGN ダンスワークショップ

▶講師:HANDSIGN
▶場所:研修室
▶無料▶要申込▶定員:30名
▶問合せ ワークショップ係
072-290-0962



HANDSIGN

4日[月・祝] 14:00~16:15

スペシャルステージ

▶出演:HANDSIGN/フェアリーズ/大阪府障がい者芸術・文化カレッジ受講生
▶場所:多目的ホール
▶無料▶要申込▶定員:1,200名
▶問合せ アートフェスティバル係
072-290-0962



フェアリーズ

10日[日] 13:30~15:30

ビッグ・アイアートプロジェクト 作品募集2013
表彰式・記念コンサート

▶出演:川井郁子/ビッグ・アイシンガーズ
▶場所:多目的ホール▶無料
▶要申込▶定員:1200名
▶問合せ アートプロジェクト係 072-290-0962



川井郁子

1日[金]~10日[日] 10:00~17:00

ビッグ・アイアートプロジェクト 作品募集2013
入選作品展

▶場所:バリアフリープラザ▶無料▶申込不要
▶問合せ アートプロジェクト係 072-290-0962

23日[土]・24日[日] 各日10:00~17:00

第11回共に生きる障がい者展

▶出演:車椅子のアーティスト 佐野有美(23日)ほか
▶場所:多目的ホールほか▶無料▶申込不要
▶問合せ 大阪府障がい福祉室 06-6944-2362



佐野有美

24日[日] 13:00~16:30

大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2013

▶出演:大阪府障がい者芸術・文化フェスタ2013にて選出された障がい者アーティスト9組(予定)
▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要▶定員:1,200名
▶問合せ コンテスト係 072-290-0962

各事業の情報保障の詳細についてはお問い合わせいただくか、ビッグ・アイ ホームページにてご確認ください。